

“ ROTARY : MAKING A DIFFERENCE “

西条 RC 2017-18 テーマ「足元を見つめなおしてみよう！ロータリーに変化を」

国際ロータリー第 2710 地区 グループ 8

西条ロータリークラブ 週報 No.2598 2017年8月31日 8月第4例会



ロータリー：
変化をもたらす

本日のプログラム <新入会員卓話 坂田 和紀 会員 >

8/24 会長時間 金好会長



皆さん、こんにちは。猛暑が続いておりますが体調は崩されてないでしょうか？本日の卓話は、新入会員卓話として和田会員にお願いしております。これまでにない異例の30分をご用意させて頂いております。宜しくお願い致します。

さて、本日は皆様に2件のご報告と1件のお願いがございます。先ずはご報告ですが、さる8月4日に八奉仕団体の会合がございました。この議題は毎年同じ議題でありまして現在100万近く貯まっているお金の使い途であります。以前広島大学のほうに桜の木を植えられた事があるとの事ですが、今年度でもなかなか意見の一致は出来ませんでした。新しく完成予定の美術館に何か寄贈するか、災害時の東広島市の備蓄すべき物を贈るとか意見は出ましたが、きちんとしたまとまった意見とはなりません。次年度以降の課題となりそうです。何か意見がございましたらお教えてください。次に8月19日に開催されました東広島青年会議所40周年記念式典であります。私にとってJCとの関わりは初めての事で、若い彼らの行動力には少し感心させられました。記念式典や記念講演を立派に成し遂げる行動力そして実践力は私達ロータリークラブにも大変参考になりましたし、そこには必要な人材がたくさん存在している事を感じさせて頂きました。小久保前WBC監督の講演も非常に興味深いものでありました。

そして最後はお願いであります。10月29日に開催されます地区大会への出席の件であります。皆様お忙しいとは思いますが、是非出席して頂ければと思います。地区大会の目的は、経験豊富なロータリアンから新会員まで、あらゆるレベルのロータリアンにロータリーへの参加を高めてもらうことです。会員、クラブ、地区による優れた活動を紹介してモチベーションを高め、さらなる奉仕活動、財団支援へとつなげていく事。また、地区大会はクラブレベルを超えたロータリーのビジョンについて学び、思い出に残る親睦を経験する絶好の機会ともなります。そして何より午後の講演会も重要な事でもあります。そこで、今回講演して頂きます講演者黒川伊保子様のご紹介をしてみようと思います。今回の演題は「男と女の脳科学ー脳が作り出す男女のミゾ、人生の波」であります。黒川伊保子様のプロフィールを紹介させて頂きますと1959年生まれの現在57歳、奈良女子大学を卒業後、(株)富士通ソーシャルサイエンスボラトリーで人工頭脳AIを研究され、民間の研究所などを経て2003年に(株)感性リサーチを設立、代表取締役役に就任されております。

著書には「英雄の書」「ぐずぐず脳をきっぱり治す」「キレル女懲りない男、男と女の脳科学」など多数出版され、エッセイリストとしてテレビにも日本テレビ「世界一受けたい授業」や明石家さんまの「ホンマでっか!?TV」他出演されております。この様に非常に興味深い講演会となりそうです、是非一緒に聞いて頂ければと思います。宜しくお願い致します。

◆◆◆ プログラムの予告 ◆◆◆

9月7日(木) 西条RCの歴史を振り返り(ハンマウム福祉会よもやま話) 本田逸男 会員

9月9日(土) 家族例会(銀河クルージング)

9月14日(木) 9月9日へ振替

9月21日(木) 例会休み

9月28日(木) プログラム委員会

皆さんこんにちは。 只今ご紹介戴きました、和田隆雅でございます。

ロータリークラブは、出席率の管理が厳しいと伺っております。

高齢でもあるので、何処まで続くか心配ですが、可能な限り出席努力致しますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



さて、私の生まれは、第二次世界大戦最中の昭和 19 年 7 月 11 日、現・中華人民共和国の遼寧省大連市です。

私の父は、昭和の初期、大日本帝国の国策会社で、当時の満州にありました「南満州鉄道株式会社」、いわゆる「満鉄」に職を求めましたが、そのころの日本国内は、米国のウォール街の株式大暴落に端を発する世界大恐慌の余波を受け、昭和大不況の渦中にあり、街は失業者で溢れ、巷では、「狭い日本にゃ住み飽きた。赤い夕陽の満州が原に雄飛しよう。」と言われたほどの閉塞した社会情勢下であり、多くの日本人が、職を求め、或いは、農業開拓者として満州を目指したそうです。

父は、満鉄が開発した、当時、世界一の性能を持つと言われた蒸気機関車、「満鉄特急アジア号」の開発と製造に携わったことに誇りを持った技術屋でありましたが、残念ながら敗戦の憂き目にあい、結果、多くの技術者が「シベリア送り」となったそうです。

「シベリア送り」と聞いても、若い人にはピンとこないかも知れませんが、要は、捕虜として、極寒の地、シベリアに送られ、大変過酷な環境での、強制労働付きの「収容所生活」を強いられるということですが、耐えられずして亡くなられた人の数は、計り知れません。

然し、和田家は、当時、多くの日本人が、蔑視して馬鹿にしていた中国の人を差別せず付き合っていた為、その方たちに助けられ、何とか日本へ引き揚げてくる事が出来たそうです。

子供の頃良く聞いた敗戦直後の話では、まず、ロシアから、いわゆるロシアの囚人部隊が進駐して来ました。彼らは粗暴で教養も低かったため、使い方も分からないまま、日本人から時計を奪い、幾つも腕にはめて自慢していたそうです。

それに、彼らからは、言葉では表せないほどの悲惨な目に遭わされた日本人も多く、職場の女性には、辱めを受けないように、「青酸カリ」が配られ、何人かの女性は、自ら、その命を絶たれたそうです。

その一方、真に許し難いことですが、昨日までは、「天皇陛下万歳！」「大日本帝国万歳！」等と叫んでいた日本人ですが、敗戦の日から一夜明けるとロシア人に取り入り、にわか共産黨員になって同じ日本人に威張り散らしたり、数々の密告をする等と豹変した、犬畜生にも劣る、あさましい日本人も、何名か居たそうです。

親たちから聞いた当時の在満邦人の方々のご苦労振り、窮地に陥った時の、人間としての身の処し方等を思い浮かべると、今でも心が痛み、涙が溢れてきます。

さて、私は、子供の頃から、「花の東京」に憧れておりましたので、高校を卒業すると、直ちに上京、明治の元勳でもある、創立者、大隈重信の反骨魂がこもった「在野の精神と学問の独立」を、理念として標榜する、建学の精神に魅かれて、「若き血に燃ゆる者」あつ、これは慶応の応援歌でした。

「都の西北早稲田の森に・・・」の早稲田大学・商学部に入学生・卒業、同じく東京で、当時、その働きぶりを、「立てばパチンコ、座れば麻雀、歩く姿は千鳥足」と揶揄された、気楽なサラリーマン稼業を謳歌した後、富士機械工業へ入社、曲折を経て昭和 62 年に 43 歳で二代目社長に就任、現在に至っております。

尚、大学では、アメリカ留学から帰国され、早稲田大学への「帰国子女入学生第一号」として入学された、当時、通産大臣であった田中角栄氏の長女、田中真紀子さんとは、経営史学界の重鎮であった、恩師・「鳥羽欣一郎教授」のゼミナールで、2年間席を同じくしましたが、ご自宅の、所謂、「目白御殿」にお伺いした時は、そのスケールの壮大さに驚愕し、言葉を失いました。

1年遅れで、女優の吉永小百合さんが、夜間の第二文学部に入学され、「サユリスト」を自称していた私は、自分の授業終了後、時々、悪友と一緒に彼女の教室を覗きに行ったものです。

彼女が、高田の馬場駅からスクールバスに乗り、一人で通学する姿を見て、「さすがに並みのミューハー女優とは人間の出来が違うなあ。」と感心しました。

彼女は、首席で卒業され、学部の卒業生を代表して、卒業式で、謝辞を読まれたとの事です。



ところで、私の家族は、敗戦の結果、中国での財産は総て没収され、文字通り無一文で日本に引き揚げてきましたが、父は、母の郷里である旧・芦品郡新市町で暫く雌伏した後、昭和 26 年の私の誕生日日である 7 月 11 日に会社を設立しました。

会社創業の理念は、「敗戦後の荒廃した日本にとっては、汗と英知を結集して付加価値を生み出す、産業機械・設備機械を造りだしていく、第二次産業の興隆こそが日本復興の最重要課題であり、自らその望みを抱いて会社を設立する。」という誠に高邁なものでした。

その志を持ち、その意味でも、社名を、日本一の山、富士山から拝借して「富士機械工業」と名付けました。

会社の事業内容は様々に変遷し、設立当初は、満鉄の関係から、国鉄・現 JR の操車場で使う「治具・工具・搬送機器の修理や製造」から始まり、昭和 40 年代から 60 年代にかけては、数年前に浅草に建てられた、「スカイツリー」(武蔵)の骨組みを組み立てる時の鉄骨の搬送用に使われました「クライミングクレーン」や、今でも、マツダ様・三菱重工業様等で活躍していますが、工場で使われる大型の「天井クレーン」、それに、米国のブランズウィックブランドの競技用ボーリングの 10 本のピンを自動的にセットする「オートマティックピンセッター」、旧・専売公社、現 JT からの「タバコ製造プラント」、そして、広島県内に設置の 3 割以上は富士機械製と思いますが、「歩行者用横断歩道橋」、さらに、地元のマツダ様始め、フォード・日産・スズキ等、自動車メーカー様の、ホワイトボディ、つまり、内装を装着する前の自動車の車体を、今注目の AI の先駆けですが、ティーチングした溶接ロボットを使って、無人で自動的に組み立てる「自動化ライン」

の仕事等、様々な製品や設備を送り出して来ました。

しかし、これらの事業からは、これまでにすべて撤退し、現在は、皆様がスーパー等で拝



見される、インスタントラーメン・冷凍食品・レトルト食品・ポテトチップスやペットフードの袋、それに、ペットボトルの帯等、主としてプラスチックフィルム等の食品包装材に印刷する「グラビア印刷機」、缶詰などの食缶・菓子缶、缶コーヒー等の飲料缶や、王冠・エアゾール缶・オイル缶などの、ブリキ板に印刷する「金属印刷機」、フィルムとアルミ箔等、異なった性質を持つシート材を貼り合わせる「ラミネーター」、続いて、パソコン・スマートフォン・テレビ等のパネルや、現在、主として中国で市場が伸びている、EV・電気自動車用のリチウムイオン電池の正極・負極のセパレート材に、耐熱や絶縁の機能性液体を塗る、「コーター」業界に参入しました。



小規模ですが、関連会社として、国内には、八本松に「機械加工会社」、東京に「メンテ・サービス会社」、海外では、中国の大連に合弁での「印刷会社」、タイのバンコクに、アセアン市場対応の為の「メンテナンス会社」、等があります。

尚、輸出比率は、既に、60%位ですが、今後の日本市場の縮小に備え、中国を含めたアジア市場は勿論、インド・中近東・中南米市場等を開拓中です。

売上高は、今月が決算月ですが、今期は、富士機械単体で、150億円超え位と思います。また、グループ会社を含めた社員総数は、370名くらいです。

ところで、私は、これまでに二度も倒産寸前の危機を体験し、最初は、昭和53年の第二次オイルショック時、近くでは、平成10年に、5期連続赤字を計上し、心の中でお詫びしつつ、止む無く、100名近くの希望退職を実施させて貰いましたが、危うく、金融機関から、所謂、「貸し剥がし」と言われる、資金を引き揚げられる寸前に陥り、「自分の人生もこれで終わりか？」と眠れぬ日々を過ごしたこともあります。

そのことがきっかけで、安芸郡府中町に在った本社機能を八本松に移し、それ以来、私も、毎日、広島市内から八本松に通勤しております。

いずれにしても、正に、遥けくも、良くもこれまで、無事に社長業が務まったものと、自分の運の強さ・良き社員に恵まれたことに、日々、感謝しています。

技術は年々進み、且つ、変革しておりますので、当社のような中小企業が、自主独立メーカーとして、単独で生きて行くことには大変厳しい状況です。日本の産業構造・価値観・仕事の仕組みも大きく変わり、近時は、IOT・AIの進歩もあり、「これからの世の中の変化に随いていけるのだろうか？」と心配しています。その為に、数年前から、「九州工業大学」・「東海大学」・「呉高专」等の研究室の先生方と、産学の共同研究に力を入れて、開発力・技術力・ノウハウ等の強化・向上を図ると共に、知的財産活動にも力をいれつつあり、来月、9月には工学博士第二号の社員が誕生します。

然しながら、既に、新聞・書籍など、紙に印刷する通常の「オフセット印刷機」が、「コピー機」或いは「ネット媒体」に浸食されているように、弊社製品も、いつ何時、「デジタル印刷機」等、他の新しい技術に取って代られるか、それに、弊社が、今後とも、新しいマーケットニーズと技術動向に対応していけるのだろうか、毎日、倒産の心配をしながら、経営に携わっております。

尚、主力工場は、小松節子大社長が率いられる、「メンテックワールド」さんの入っておられる八本松の磯松工業団地にあります。同じく八本松東にもう一か所、安芸郡府中町、そして東京の葛飾区にはサービス工場と、併せて4工場があります。



亦、引き続きで申し訳ありませんが、ご理解を深めて戴く為、8年前の平成21年放映で、アーカイブもどきで古いのですが、分かり易く編集されていますので、地元・広島テレビの「夢の通り道」と言う番組を、コマーシャルカットして圧縮したDVDをご覧戴き、自己紹介を終えさせて戴きたいと存じます。

最後になりますが、4月13日の入会式の時にお話ししましたものの、欠席の方も居られ、亦、私の体験上から、時の経過もあり、多くの方は既にお忘れの事と思いますが、私は、中国に居た一歳半くらいの頃、自宅の2階から落ち、右耳から大出血、外地での敗戦直後でしたので抗生物質が無くて治癒せず、それ以来、右耳が高度の難聴です。私の右耳側、皆様から向かって左側から小声で話しかけられると聴こえ難く、ご返事出来ない時があります。その時には、不愉快に思われず、ご理解の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。ご清聴、誠にありがとうございました。

出席報告

会員数	38名	出席者	27名
欠席者	9名	免除者	2名
来訪者	3名	出席率	71.05%
8/3の欠席者	3名	マークアップ	2名
8/17の欠席者	6名	マークアップ	2名
		通算出席率	99.48%

お客様

元会員 大下 壺 様
入会予定者 三名田 多佳男 様
富士機械工業(株) 古本 孝輔 様

スマイルボックス

○100%出席

39年 小早川会員
24年 要源会員
17年 新開会員

幹事報告

委員会報告 ○なし。

西条ロータリークラブ

創立 1964年5月11日

例会日 毎週木曜日 12時30分～13時30分

例会場 〒739-0024 東広島市西条町御菌宇円城寺 6950-2

グランラッセレ東広島

TEL(082)423-3000 FAX(082)423-8649

事務所 〒739-0025 東広島市西条中央 7-23-35

東広島商工会議所会館 3F

TEL(082)420-0320 FAX(082)420-0319

URL:<http://www.saijo-rc.jp>

E-mail:saijorc@eagle.ocn.ne.jp

会長 金好 康隆

副会長 須賀 宏

幹事 武島 靖爾

副幹事 奥本 哲之